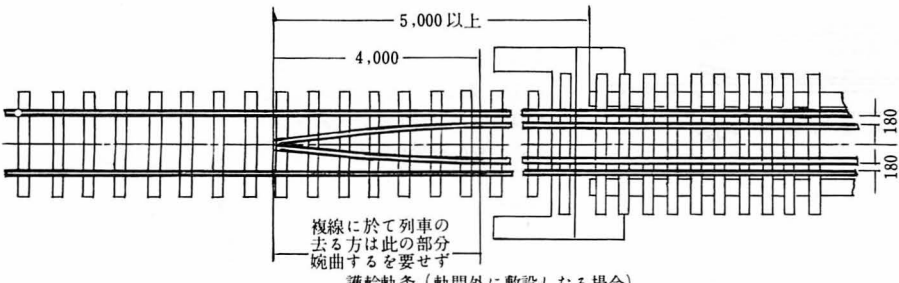


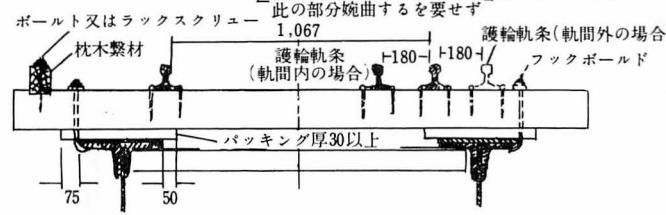
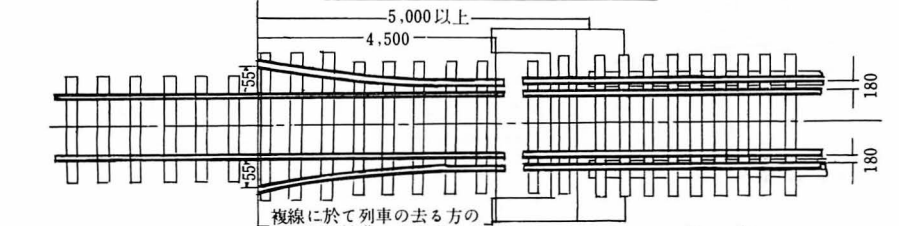
図-1. 橋上護輪軌条, 枕木繫材, パッキングおよびフックボルト

(単位 mm)

護輪軌条 (軌間内に敷設したる場合)



護輪軌条 (軌間外に敷設したる場合)



備考

1. 護輪軌条は普通軌間内に敷設し降雪地方其他特に必要ある箇所にして取付上支障なき場合に限り軌間外に敷設するものとする
2. 軌条支材の取付を要する曲線に於て護輪軌条を軌間外に敷設する場合は支材を省略し本線軌条及護輪軌条間軌条頭部以下に適當なる切張を施すものとする
3. 電化区間に於ける護輪軌条先端接合部には電気絶縁物を挿入するを要す

打ち込む。ただし枕木繫材(けいざい)に兼用する場合は、犬釘を各枕木ごとに打ち込むことが必要である。

護輪軌条を必要とする橋梁は、現場の状態を考えて定める。たとえばその橋梁およびその付近が急勾配の場合、急勾配の下り込み等の箇所、あるいは直線区間でも相当長大な、または高い橋梁で脱線墜落した場合、危険のはなはだしいおそれのある橋梁などは必要である。

分岐器用ガードレール (写真-2) はクロッシングの鼻端部を車両が通過するとき、異線に進入することがないようにするため敷設される。ガードレールを間隔材、床板、ボルト等で組立てたものはガード (guard) といっている。



写真-2. 分岐器護輪軌条

クロッシング鼻端軌条とガードレール輪縁側との間隔は、1,020~1,032mmの範囲内に保守しなければならない。

分岐器用のガードレールの長さは、クロッシングの番数、レール種類によって異なっている。たとえば30kg 8番は2.7m, 30kg 10番は4.5m, 30kg 12番は5.4mのようである。

普通本線レールと同高に取付けられているが、保守困難であるので、最近本線レールより10~20mm高く敷設するよう研究されている。

踏切道に使用するガードレール (写真-3) は、踏切道の軌間

内に敷設し、本線レールとの間隔は65mmが原則である。踏切道が曲線中にある場合は、その曲線のスラックに65mm加えた間隔で敷設するが曲線半径400m未満の場合は75mmに一定している。終端部は150mmの間隔になるように漏斗(じょうご)形に曲げて取付ける。取付け長さは普通300mm以上の長さであるが、半径400m以下の曲線では、列車または車両の進入方向に対しては700mm以上にしなければならない。

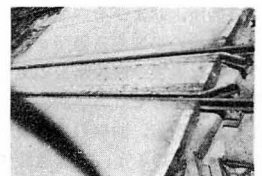


写真-3. 踏切道護輪軌条

このほか曲線に使用する護輪軌条の類に、脱線防止軌条、摩擦防止軌条がある。脱線防止軌条 (写真-4) は本線路でとくに必要と認める軌条の内側に、その曲線のスラックに65mmを加えた間隔で敷設し、その両側は1.5m以上の長さで漏斗形に彎曲(わんきょく)し、終端で少なくとも180mmの間隔を保たなければならない。

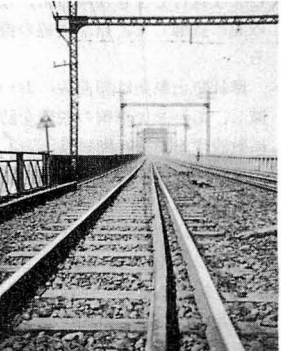


写真-4. 脱線防止軌条